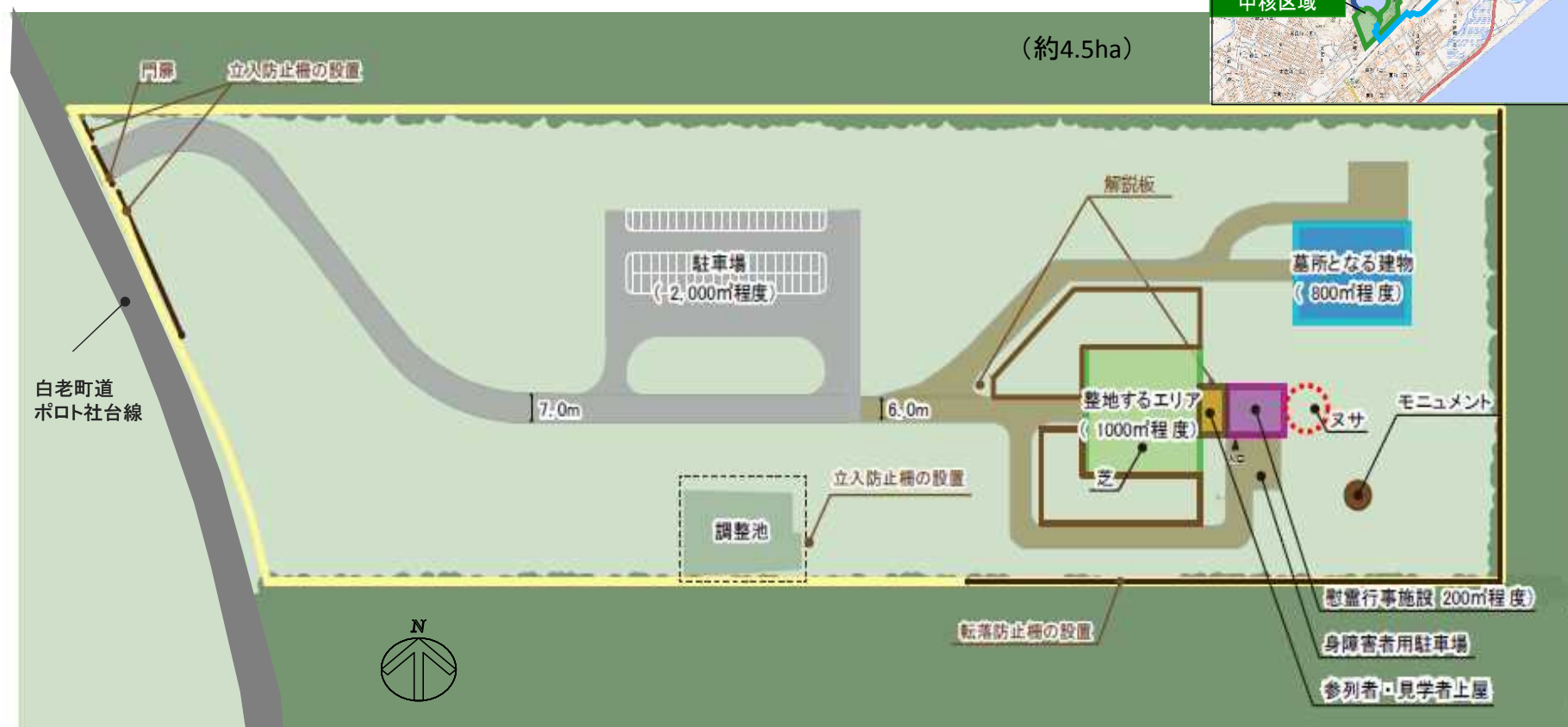


慰霊施設の整備について

- ・アイヌの人々による尊厳ある慰霊の実現に向けて、ポロト湖の東側の太平洋を望む高台に慰霊施設を整備。主要施設は、「墓所」となる建物、慰霊行事を行うための施設、モニュメント、前庭(広場)、駐車スペース等。
(第8回 アイヌ政策推進会議(平成28年5月13日)で整備方針を了承)
- ・上記整備方針をもとに、具体的な施設のあり方を検討し、各施設の設計を進めているところ。

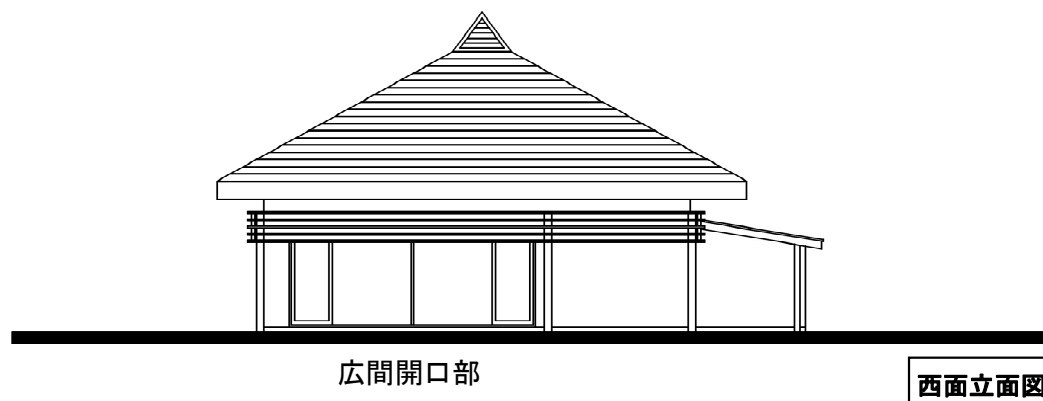
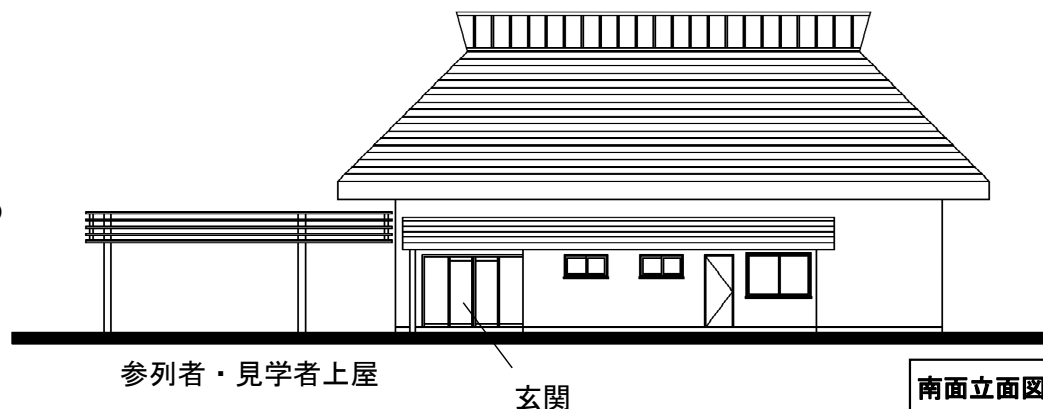
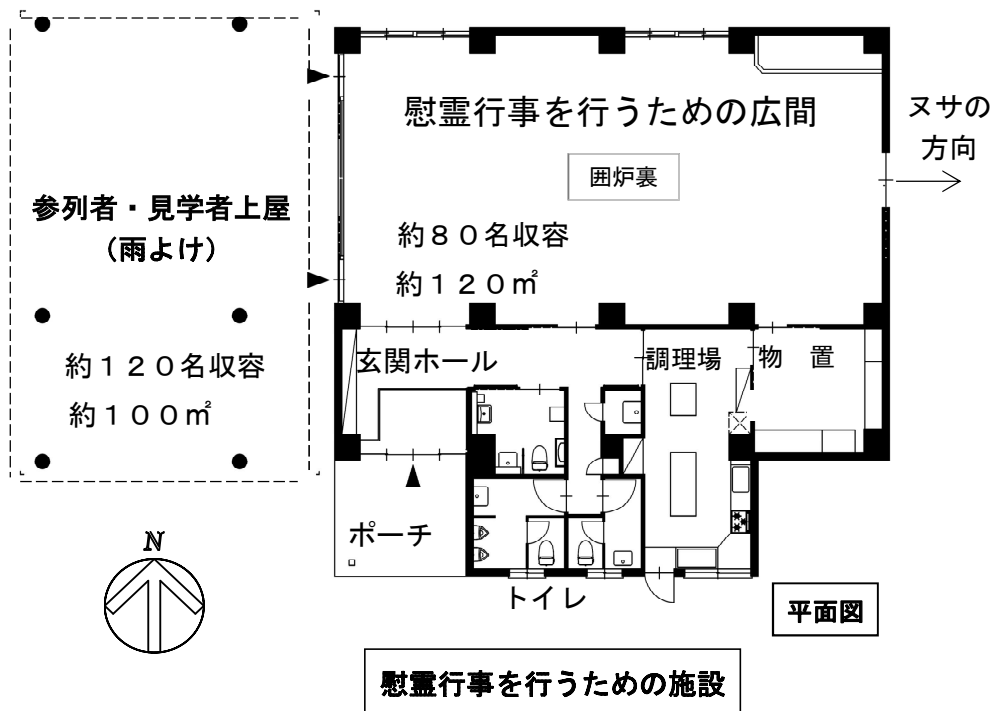
慰霊施設の全体配置図



※全体配置図は設計段階におけるイメージであり、変更の可能性がある。
※樹木の伐採及び植樹については検討中。

慰霊施設の整備について 「慰霊行事を行うための施設」

- ・ 慰霊行事を行うための施設はチセ風の外観とし、伝統儀式を行うための広間（囲炉裏を含む、約80名収容）、調理場、トイレ（身障者用含む）、物置等を設置。
- ・ 屋外からの見学や出入りが可能となるよう広間に開口部を設けるほか、参列者・見学者の雨よけ等のための上屋（約120名収容）を併設。



施設概要

慰霊行事を行うための施設

延べ面積：約200㎡

構造：鉄骨造一部木造

参列者・見学者上屋

上屋面積：約100㎡

構造：鉄骨造

※詳細は実施設計により変更の可能性がある。

慰霊施設の整備について 「モニュメント」

- ・モニュメントのあり方を検討するため、アイヌ関係者やデザイン・造形の専門家から成る「慰霊施設を象徴するモニュメント検討会」(委員長:北海道大学アイヌ・先住民研究センター 常本センター長)を設置(H28年12月)。
- ・北海道アイヌ協会の意見・提案をもとに、モニュメントのコンセプト、デザイン・形状、構造形式などを取りまとめ(H29年3月)。

検討会メンバー

加藤 忠	(公社)北海道アイヌ協会理事長
上遠野 敏	札幌市立大学地域連携研究センター長
北嶋 由紀	(公社)北海道アイヌ協会主事
津田 命子	北海道大学アイヌ・先住民研究センター客員研究員
☆常本 照樹	北海道大学アイヌ・先住民研究センター長
吉田 恵介	札幌市立大学名誉教授

☆委員長 (50音順 敬称略)

検討経過

第1回	H28.12.12	基本的条件の確認、留意点等
第2回	H29.1.23	コンセプト、デザインの方向性、構造、外装材等
第3回	H29.2.24	コンセプトの確定、デザイン案の絞り込み等
第4回	H29.3.27	最終とりまとめ

モニュメント整備の方向性

- ・イクパスイをモチーフとし、アイウシ・モレウ等のアイヌ文様を表現
- ・形状は楕円柱とし、構造体は鉄骨
- ・外装材はステンレスとし、文様をセラミック塗装で着色
- ・高さは30mを基本

モニュメントのイメージ



※本図は基本設計段階におけるイメージであり、今後、詳細設計等において変更となる可能性がある。

○コンセプト

「過去を忘れず、未来にわたり尊厳ある慰霊を実現するための礎とする」

【モニュメントのデザインに込める思い】

- ・魔除けの意味があるアイヌ文様と神への願いを意味するイクパスイ
→ 心と心を寄り添わせて先人の魂が安らかであらんことを願う慰霊の思い
- ・フクロウの文様
→ アイヌの人々が培ってきた自然との共生の理念
- ・モニュメントが空に向かって伸びる様子
→ 未来へ向かって平和を希求する思いと民族共生の理念